

景気動向調査 令和4年12月分（令和4年12月末現在）

大分県中小企業団体中央会では、県内中小企業の現況、課題を迅速にとらえ、これらの情報を行政等へ提供するとともに、本会事業の活用に資することを目的に、中小企業団体情報連絡員事業を実施しています。

この事業では、県内の主要業種46組合に「情報連絡員」を設置し、毎月の景況調査報告(前年同月比)を収集しています。

【12月の景況】

12月のDIは、9指標のうち5指標が好転、4指標が悪化という結果となった。

ただし主要3指標はいずれも悪化しており、売上高DIが16ポイント低下、収益状況DIが5ポイント低下、景況感DIも2.2ポイント低下となっている。

大分県内は、新型コロナウイルス第8波の到来となっているが、外出自粛等も緩和され、年末商戦や観光地にも少しずつ活気が戻りつつある。ただし、ウクライナ侵攻に端を発する原油高、それに続く各種原材料費上昇による物価上昇が見られるようになってきている。

また、調査員のコメントをみても、原材料の価格高騰の影響を懸念する声が多く寄せられている。



景況感 DI 値

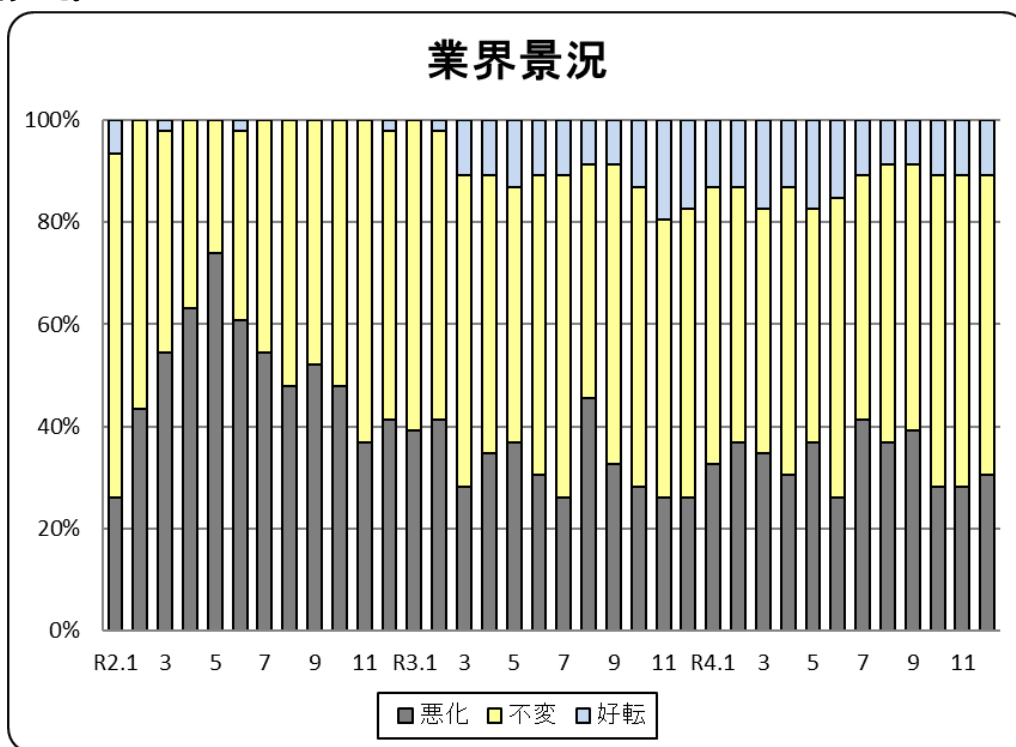


参考：日本銀行「企業短期経済観測調査」（大分支店調査分）

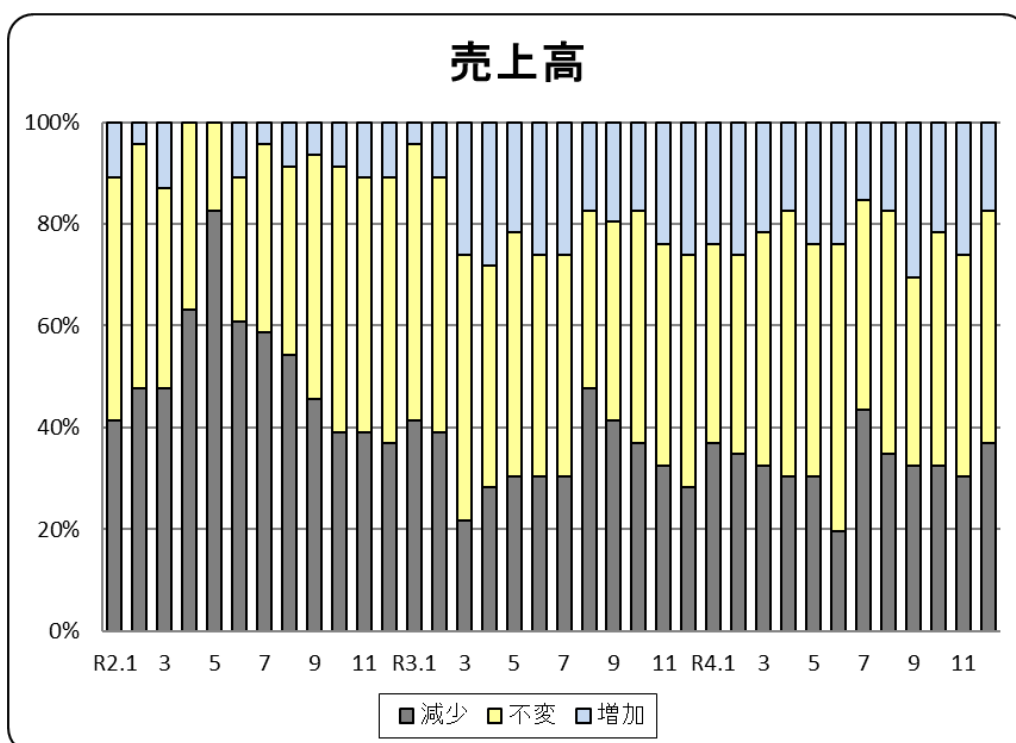
【主な調査項目での動向】

主要な調査項目を見ていくと、売上高DI値は、 $\Delta 20$ ポイントとなり前月より16ポイント減少。収益状況DI値は、 $\Delta 22$ ポイントで前月より5ポイント減少。雇用人員DI値は、0ポイントで前月から11ポイント増加となった。

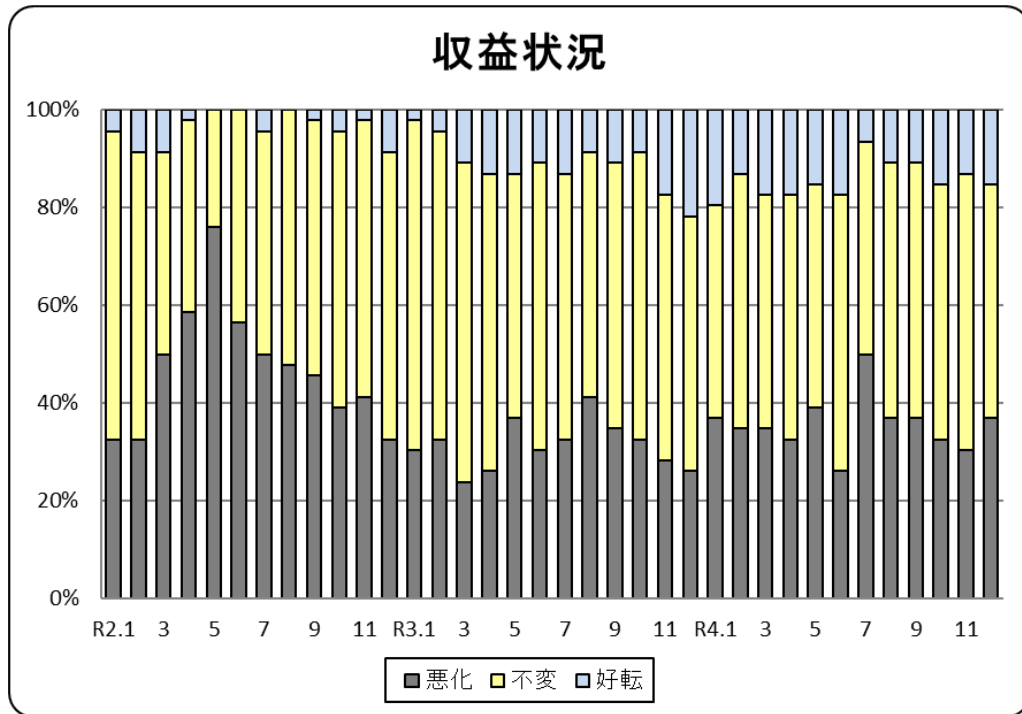
景況の動向は、好転は5組合、悪化は14組合であった。DI値は $\Delta 19.6$ ポイントで前月から2.2ポイント減少。割合で見ると、好転11%、不変59%、悪化30%であった。好転したのは、鉄鋼・金属、輸送機器、小売業、運輸業であった。



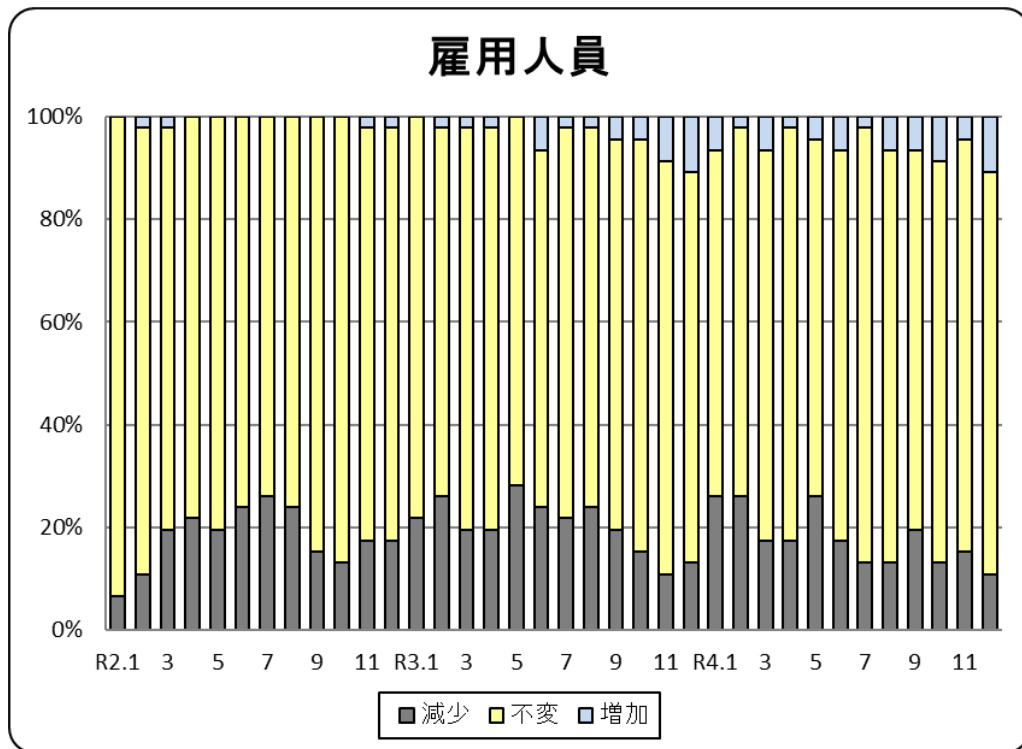
売上高の動向は、増加は8組合、減少は17組合であり、DI値は $\Delta 20$ ポイントで前月から16ポイント減少。割合で見ると、増加17%、不変46%、減少37%であった。



収益状況の動向は、好転した組合は7組合、悪化と回答した組合は17組合であった。DI値は△22ポイントで前月から5ポイント減少。割合で見ると、好転15%、不変48%、悪化37%であった。



雇用人員の動向は、増加は5組合、減少は5組合であった。DI値は±0ポイントと先月から11ポイント増加。割合で見ると、増加11%、不変78%、減少11%であった。増加したのは鉄鋼・金属、輸送機器、小売業、商店街である。



(集計方法)

※DI 値(前年同月比)=[(増加・好転組合数-減少・悪化組合数)÷調査対象組合]×100

(業界の景況についての項目を「好転」割合から「悪化」割合を引いた値をもとに作成します。)

※小数点以下四捨五入

主要3指標の前年同月比DI推移【大分県】

